

# 市民の目線で、行政をチェック

## 日本共産党 4議席



市議会議員  
いぬい紳一郎



市議会議員  
小田桐たかし



市議会議員  
徳増きよ子



市議会議員  
植田和子

### 教育

#### 過大規模校の解消を

当局の言い分を鵜呑みにせず、現地調査でウソを見抜き、厳しくチェック。9月議会では日本共産党の議席の値打ちが浮き彫りに…。

また、「児童増加で教室が足りない」と深刻な学校問題。4人が連携、問題を掘り下げて、適正規模での学校配置を強く求めました。

いじめ、自殺、教職員の長時間過密労働：学校の環境の改善は市民全体の願いです。

さらに、新設校（H33年4月開校）の場所も、規模も「市の都合」が最優先。その結果、通常校の2・7倍、48学級を詰め込むことで、教育活動への支障は増すばかりです。また、他校では学区境となるような交通量の多い大規模道路でも約1500人規模の児童が登下校で利用。一部地域では、2度目の学区変更です。

しかし、出産や療養休暇の代替教員すら不足しているなかで、市内各地で過大規模校（31学級以上）が続出。昼休みも自由外遊びができず、体育館での授業も使用する学級の割り振りが困難など学校現場の苦労は増すばかりです。

子どもが主役の学校だからこそ、市の姿勢が問われています。



### 保健医療

#### 来年4月から都道府県化 今こそ国保料の引き下げを

国保の運営主体を県に移管する「大改革」は国保加入者に犠牲を強いるものです。国保法第一条は「社会保障および国民保健の向上に寄与することを目的とする」と明記しているように相互扶助制度ではなく社会保障制度です。にもかかわらず、流山市の国保料滞納世帯

国保加入者の32%を超えます。必要なのは払える国保料への値下げです。誰でも安心して医療が受けられます。



### 次々起こる法令無視

#### 議会のチェック機能が問われています

「あつてはならない」事態は、昨年家庭・事業系のごみ混合に続き、今度は議会承認前に工事の発注・施工が進められる…こうした事態はマスコミにも報道されました。

次々起こる法令無視に、議会のチェック機能が問われています。

### 教育の矛盾の背景に開発問題

これら矛盾の背景に、TX沿線巨大開発があります。人口減少時代なのに640ヶ所（東京ドーム145個分）・6万4千人の人口増を計画。事業開始から20年目で3万人の人口増という到達です。さらに、井崎市長により小学校5校・中学校3校の新設計画は、小中学校1校に集約。学校予定地をなくし、駅前市有地は一企業の利益追求の道具に。巨大開発に加え新自由主義的な市政「経営」が矛盾をさらに深めています。

### 新川耕地「全国一」の物流拠点に

沿線巨大開発と一体で、新川耕地にも物流倉庫が次々進出。高校や介護施設を取り囲むように、その規模は全体で「全国一」とも。一極集中、しかも365日・24時間営業で交通・騒音・環境等の問題が生じます。

### 介護

#### これでは介護が使えない

H27年度に大幅改悪された介護保険制度。利用料2割負担、施設利用者への補足給付（低所得者への補助）縮小で利用者への負担は大きく増えました。デイサービスの回数減らした、介護施設を退所した等深刻な事例が流山市でも広がり、ケアマネージャーからは「介護サービス利用の障壁がどんどん高くなっている」との声が寄せられています。

H27年度に大幅改悪された介護保険制度。利用料2割負担、施設利用者への補足給付（低所得者への補助）縮小で利用者への負担は大きく増えました。デイサービスの回数減らした、介護施設を退所した等深刻な事例が流山市でも広がり、ケアマネージャーからは「介護サービス利用の障壁がどんどん高くなっている」との声が寄せられています。

H27年度に大幅改悪された介護保険制度。利用料2割負担、施設利用者への補足給付（低所得者への補助）縮小で利用者への負担は大きく増えました。デイサービスの回数減らした、介護施設を退所した等深刻な事例が流山市でも広がり、ケアマネージャーからは「介護サービス利用の障壁がどんどん高くなっている」との声が寄せられています。

### 身近な要求実現

スポーツフィールド  
草刈り、ほこり対策実現  
いぬい紳一郎



道路陥没を修繕  
(美田)  
小田桐たかし



松ヶ丘一丁目  
カーブミラー取り付け  
徳増きよ子



江戸川台駅西口の  
ひびわれ修繕  
植田和子

